

## 幼児の仕事の一つ

——大工仕事——

新庄よしこ

女の子の仕事の一つとしては冬の寒い日、さては雨のつく午後などぬひとり（毛糸針の太さに毛糸をとほして）をしたりしたが男の子への仕事を何かと探して居たがこのごろ大工道具を使ふ仕事を始めて見た。

幼児には鉋もかけられようはなし鉋も使へまいし、まして自分で計畫して思つた通り作るといふ事は勿論望みもしなかつた。それ故子供の仕事とも先生の仕事ともつかずどんな風に出來るかと思つたのがお茶の水の停車場である、（震災前にも停車場をつくつた事があるので手始めとしては少しでも自信のあるものと思つて）

始めて見ると板はたやすく鋸できれるので幼児の一人にさせたところかなり上手にきるし釘はうてる。あひま／＼に五六人が代りあつて板をきつたり釘をうつたりして今出來かゝつてゐるかういふ風にすればいいといひ出すものもある。何をしても出來なくて困つて居た子が大好きでこれをする時ばかりは非常な熱心と巧みさをあらはすので家が少しづつ完成しかけてゐる喜びと同時にかうした子供の力を見つけ出したことを大變うれしく思つた。

先生も面白いのでつい自分でしてしまひたくなるので先生がし過ぎない様子を付けてゐる。

あぶない道具をつかふのでこれの處置や始末にも注意をしてゐる。猶これは停車場のみに止らず幼児からの申し出によるこれに關聯したものを順次につゞいて作りたいと思つてゐる。